

令和5年度 第3回亀岡市新資料館(仮称)整備検討委員会 議事録

日時：令和6年3月12日（月）14時00分～16時00分

場所：亀岡市文化資料館3階 研修室

出席者：井尻智道委員、加藤美智恵委員、佐々木丞平委員、中西裕樹委員、前田尚武委員、松岡久美子委員

事務局：教育長 神先宏彰（冒頭挨拶後、退出）

教育部歴史文化財課長 岡田康宏

歴史文化財課資料館企画係 係長 飛鳥井拓（学芸員）、主事 澤田一輝

同 文化財係 主事 立脇玄貴（学芸員）

オブザーバー：乃村工藝社

議題：1 開 会

2 あいさつ

3 会 議

① これまでの経過について

② 亀岡市新資料館（仮称）整備基本構想（案）の確認について

③ 今後のスケジュールについて

4 閉 会

3 会 議

※事務局の発言は（事務局）と示す。それ以外は出席委員の発言。

① これまでの経過について

＊今後の計画を説明（事務局）

・令和5年12月26日 第2回

2月8日 基本構想第3稿の送付

2月16日～25日各委員を訪問

・本日第3回は、基本構想の最終確認を行う。

・構想書の名称および事業名称は、これまで通り「新資料館（仮称）整備基本構想」とするが、構想書内での新施設の名称は「新博物館」とする。

② 亀岡市新資料館（仮称）整備基本構想（案）の確認について

第1章

・第1章は社会的動向、現状の課題、現在の取り組みをまとめている。

・P.2「これまでの経緯」で、円卓会議（友の会と市長）とユースミーティング（高校生と市長）も追加すべき。

・承知した（事務局）。

・P.2「本構想の目的」に新しくできる施設が博物館を目指す姿勢を記載するべき。

・承知した。次年度以降の事業名称は「新博物館」を検討している（事務局）。

・資料館と博物館の名前の違いはあるか。事務局は、「新博物館」という名称にしたいのか。

・登録博物館・公開承認施設を目指すため、「新博物館」と名称を変えた方がわかりやすいと考える（事務局）。

・「文化座談会」ではわかりにくい。「友の会 文化座談会」にするべき。

・公開したフライヤーと照らし合わせて、修正する。

第2章

・(1) 亀岡のたからものを守る「砦」の方が適しているのではないかと。

・「館」の方が博物館や美術館など、恒久的な施設として適しているとする（事務局）。

・「たからもの」とした意図はなにか。

・文化財だけではなく亀岡の大切なものを指している。市民にも伝わりやすい言葉として選んだ（事務局）。

・理解した。たからものには「 」をつけるべき。P.8 基本理念の「資料」も「たからもの」に変えた方がよい。併せて「たからもの」の表記を統一するように。

・承知した（事務局）。

・他館との連携・ネットワークの構築、巡回展へも対応は、文化観光だけにとどまらないのではないかと。

・(1)は資料の保存、(2)は亀岡市内の交流を促進、(3)は亀岡市外との連携を…など、タイトルは変更するべき。

・承知した（事務局）。

・(1)に「積極的に展覧会を実施する」と文言を追加すればよい。

- ・上記指摘は、パブコメの指摘と合わせて修正し、委員の皆様へ修正内容をお知らせする(事務局)。
- ・1は資料館的。2・3も併せることで、新博物館でなければならない理由が出てくる。
- ・巡回展を構想書に明記するケースはあるか。
- ・「基本計画」の「運営」の中で、巡回展を年何回行うか、記載することとする(事務局)。
- ・ターゲットの中に「亀岡市に来る観光客」とするのは違和感がある。市民のための施設であることが伝わりにくい。
- ・新博物館は市民が亀岡について学ぶ場である。「市民のための」を明記するべき。
- ・亀岡市民のための施設であることは前提条件である。亀岡市が抱える「担い手不足」「人口減少」という課題解決のためにも、市外からの来訪者を奨励したい(事務局)。
- ・わざわざCとEを明記する必要はないと考える。
- ・交流人口や移住者の増加を意図しているが観光客は本文中にとどめて、来訪者の方が良いのではないか。
- ・観光客に代わる言葉で来街者がある。
- ・市の総合計画も参照して、観光客に代わる名称を検討する(事務局)。
- ・ターゲットは今後の運営や事業の継続性を検討する際に必要である。
- ・総合的にしすぎると、どれを特筆したいのかかえってわからなくなってしまう。
- ・基本理念と合わせて、ターゲットを設定するのはどうか。
例)市民と市民をつなぐ→ターゲットは市民 市外連携→ターゲットは観光客
- ・事務局は、上記の意見を参考に修正するように。
- ・承知した(事務局)。

第3章

- ・P.10 湯の華温泉→湯の花温泉 修正するように。
- ・承知した(事務局)。
- ・P.13 市民活動をおこなうホールをサービス機能に加えるべきではないか。
- ・ホールは居室検討のところで上げている。記載はしない(事務局)。
- ・市民の学習も追加いただきたい。
- ・P.12 市民共創の中で調査・創作・学習を追加するのが適当
- ・承知した。修正する(事務局)。

第4章

- ・文化座談会の中でも話題の出た故上田正昭先生所蔵資料も追記いただきたい。
- ・新博物館での所蔵は検討していない(事務局)。
- ・「円」山応挙に表記を統一すること。
- ・承知した。修正する(事務局)。

第5章

- ・今後基本計画以降で、具体的に議論を進めていくためにも建設予定地を明記している。

- ・「交流スペース」の名称を「ホール」等に変更すべき。ホールは当施設の中心的な場所になる。
- ・共用部門から抜き出し、交流学習部門等に位置づけるべき。
- ・ホールは、施設の要になる。1000㎡は狭いのではないか。
- ・友の会の活動もこのスペースで行うことを考えると、狭いと考える。
- ・ホールの所室面積を確保するために、多機能の所室が減るのは、本末転倒。
- ・現資料館を交流部門の場所として活用できるよう、ふくみを持たせた文言を記載しておくべき。
- すべての機能を新博物館の施設内に収める必要はない。
- ・諸室面積について承知した。再検討する(事務局)。

第6章

- ・6-3 C 直営+業務委託について、学芸部門は直営であることを明記すべき。
- ・直営について明記すべき。
- ・承知した。上記2点修正する(事務局)。

第7章

- ・7-2 課題として、市民の意見を取り入れる仕組みづくりを加えていただきたい。
- ・設計段階から、市民に公開し、意見をもらうことは必要。今後も継続する。
- ・ただし、課題はこれだけではない。基本構想で持ち越している課題なのか、基本計画を見据えての課題なのか不明。課題は削除した方がよい。
- ・承知した。削除する(事務局)。

その他

- ・第1章・第2章以降、ヘッダーに章名が記載されている。削除すべき。
- ・承知した。初出のページ以外は削除する(事務局)。

③ 今後のスケジュールについて

- ・3月15日 パブリックコメント締め切り
- ・3月19日 教育委員会に提出 ※19日以降の構想書の修正は難しい
- ・3月末までに基本構想の印刷・製本
- ・最終確定案を委員へ送付

以 上